

MARUMO LIGHTING NEWS

7月1日発行・年4回発行
44-3号

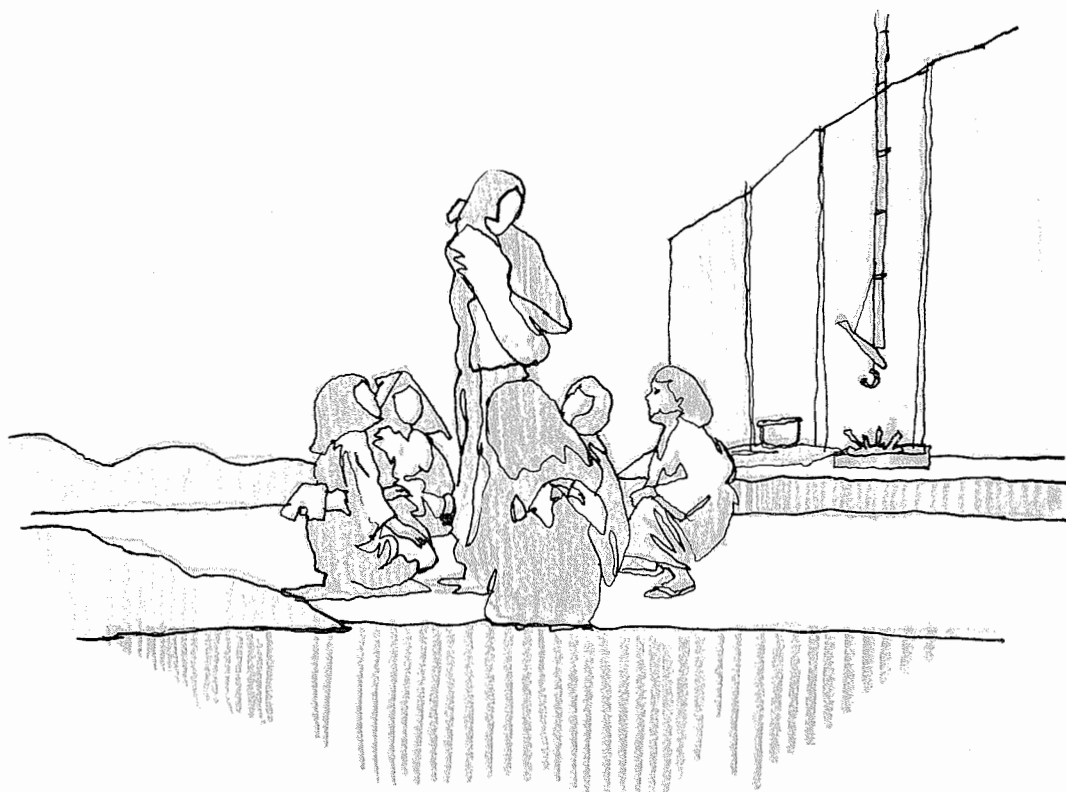


特集I

“夕鶴”の照明について

舞台照明家

穴沢喜美男



夕鶴の照明の基本的なものは、その架空の象徴性、幻想性をどのように光線によって具体化するかということでした。

一面の雪の中にぼつんと一軒、小さなあばらや。家のうしろには、赤い赤い夕やけ空がっぱいに…………と、始めのト書にかいてあります。

この物語が要求する光線は、現実の姿でもなく、絵本その他でもかって観たこともない美しさではないでしょうか。

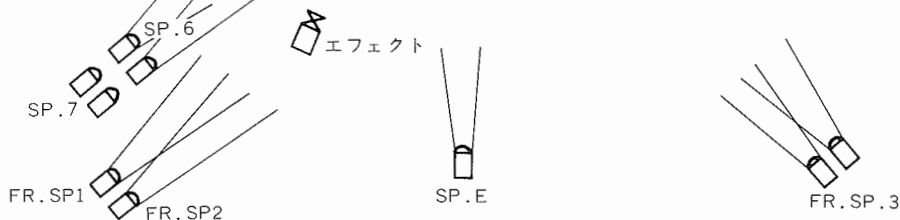
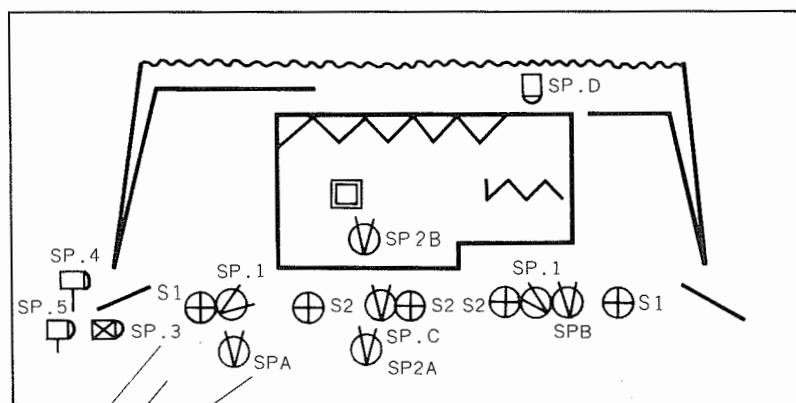
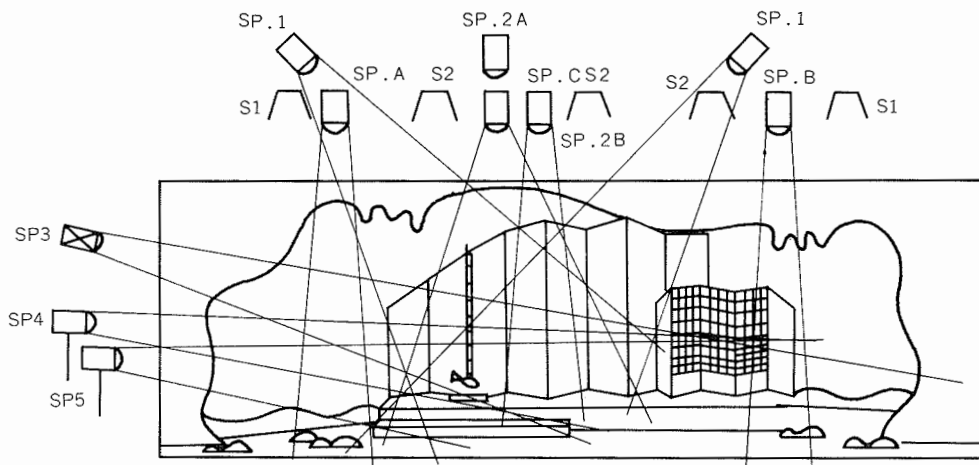
心の中でのみ描いた架空の美しさ、幻想的な一つの世界、そういった性質のものではないでしょうか。

そこで私の試みた一つの構成法は、観客の

想像力を少しでも多く喚起することになりました。

それは一つの暗示を与えて想像力を徐々に高め、夕鶴の要求する世界に観客を導入させていく方法…………幕開きの部分では、赤い赤い夕焼け空を構成するために、赤・橙・濃青・淡青・ヴァイオレット・パープル等を瞬間瞬間に各々の光度、色度の明暗を変化させて、観客の知覚の中にさまざまな色彩を残像として残すことを試みました。

また溶明の速度は無から有を浮かび上らせる重要な瞬間なので、色彩の種々な組み合わせや明るくなる速度は、公演ごとに何十回となくテストされて現在のような構成に定着して



きましたが、この速度は団さん(団伊久磨氏)の音楽が主導的な役割となつて、光線の流動性と共に、その幻想性の滲透を助成してくれました。

次につうの内面的心理の表現が数回「独白」という形象で出てきますが、心理の表現の場として、空間と光源をどう処理し解決するのかがこの戯曲の中では重要な要素です。第一幕目の独白に例をとるならば、かすかな夕映えの中で子供達の、かごめ・かごめの唄に囲まれながら、心理の世界に移行するつうの孤独と哀愁、かすかな希望が交錯する複雑な表現が要求されます。即ち、その訴求力、説得性と同時に象徴性、

幻想性をつうという現実の姿の中に内面から外面に、また内面にと、セリフの進展と共に移行する心理を最大限に表現せねばなりません。

現在の構成は、数か所にスポットを吊り、観客席の後方よりスポットで追う方法をとっていますが、(もちろんセリフの移行につれ、光度、色度、角度、溶明、溶暗は、私の感覚や解釈の結果なりに速度なり、その他の度合がありますが)それがいかにも機械的な、悪い意味に於いて近代的な処理で、夕鶴という戯曲のもつ特殊性とかけはなれたように思えます。

その一つの盲点は、スポットという器具の光源からその致達点迄の間にビームというやっ

夕鶴照明操作記録表 (抄)

(電圧 V)

器具名称	セラチン	場面	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
フットライト	#72 (濃青)	0→65		0	65	0	65	0	65	65	0	60	60	60	65
"	#78 (淡青)	0→50		0	50	0	50	0	50	50	0	40	40	40	50
第一ボーターライト	#72	0→80		0	80	0	80	0	80	80	0	70	70	70	80
"	#78	0→55		0	35	0	35	0	35	35	0	0	0	0	55
第二ボーダーライト	#72	0→70		0	70	0	70	0	70	70	0	60	60	60	70
"	#86 (パープル)	0→100		0	100	0	100	0	100	100	0	0	0	0	100
サスペンションスポット	#78 + 00	0→100		0	100	0	100	0	100	100	0	55	55	55	100
"	#35 (橙色)	0→100		0	50-100	0	100	0	100	100	0	60	0	0	100
ステージスポット (下手奥)	#37 (藍色)	0-100-45		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
"	#37 (下手前)	0-100		0	100	0	100	0	100	100	0	65	65	65	100
フロントスポット (下手)	#37	0-100-45		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
"	#78 (上手)	0-100		0	100	0	100	0	100	100	0	65	65	65	100
サスペンションスポット	#78		80-0-60			60									
"	#41 (黄)						70-100-70								
ステージスポット (上手奥)	#35 (橙)									70↔35-60					
センタースポット	#65	100			100		100						0		
	#78														

- (1) まっ暗の中で子供の唄 (溶明)
- (2) あたりが急に暗くなりつうの姿のみ光の輪の中に残る
- (3) 窓どと運ずと与ひょうがでてくる
- (4) 与ひょうを引っぱるのをやめて「ねえねえ」(外に出る)
- (5) 与ひょうこわごわでてくる
- (6) ざらざら黄金が床にこぼれる
- (7) 明るくなる
- (8) 窓どか物蔭から飛んでくる
- (9) 暗転
- (10) 明るくなる一面の夕やけ
- (11) はたりと機音がやむ
- (12) うん あたしは…… (笑ってたつすつと白くなる)
- (13) 運ずの腕の中に喪神したような与ひょう子供達が駈けてくる

かいな現象があらわれ、光源の位置がはっきりとわかってしまっていて、人工的なものを想像させて、幻想性なり、象徴性なりを非常に減じて何か近代的な現実性が現われてしまうということです。

つうという存在は自由にどこへでも行くことの出来る存在で、雪の野原、池の中、大空の中というように、そこに少しでも現実的なものが介在することは夕鶴の特殊性からみて架空性を減ずる点が多いのです。

装置は伊藤先生 (伊藤喜朔氏) の手腕によって実に単純明快に処理されています。しかもその効果は能のもつ高度の芸術性に迄迫ってきているのです。

私は今こんなことを考えています。それは、つうという存在が、ある場合には一つの発光体、すなわち、つう自身から種々の色光を発するような器具が考案できればと。そうしたなら心理の表現がまた違った構成法をとるのではないかと。

例えば——「ざらざらと黄金が床にこぼれる

る。じつとそれと見つめている。あたりが急速に暗くなって、つうの姿と黄金のみが光の輪の中に残る……」この場合、黄金が一つの発光体であれば、あたり一面黄金色に輝いて、その中につうのみ或る影をもった淡青白色になり、その度合が段々と強くなる……というふうには。

そしてつうのセリフの進展と共に、つうの身体を中心部分に、死んでしまうかもしれない、しかし、一枚だけ織ってやるという決意を表現する赤ならば赤色の点はその瞬間に現われ、それが段々と拡大されていき、ついにはそれが或る形象となり、しかもその光度もしいに増していく……。そしてセリフのさいごでは淡いパープルにかわっていく……という構成。

現在でもこれに近い構成法なのですが、前へのべたように、いかにも人工光線でありますという結果になってしまうのです。今後公演の機会があればこの点をなんとか工夫したいものです。

穴沢喜美男先生は夕鶴の照明で1950年毎日演劇賞を受賞されました。(編集者注)

使ってみませんか —— マルモ照明操作分電盤

舞台照明では舞台がよく見える位置から、使用する照明器具を任意に点滅したり調光することにより、照明効果をあげることができます。

マルモでは「学校向」アマチュア演劇向のために照明操作分電盤を制作し9月1日より発売することになりました。

マルモ照明操作分電盤DL型

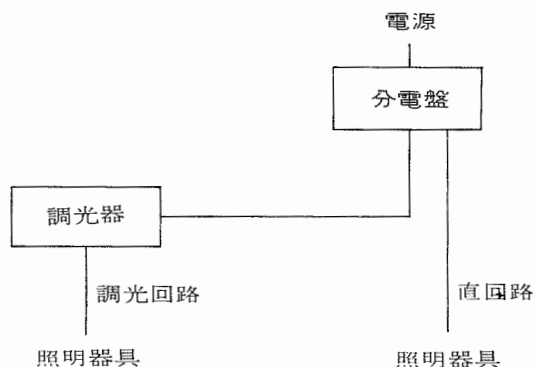
メインSW・
ノーフェーズブレーカー60A
負荷回路12回路
直調切替SW付
定価 40,000

半導体調光器（1KW～6KW）と組合せて各回路とも伝意に調光操作することができます。

マルモ照明操作分電盤L型

メインSW・
ノーフェーズブレーカー60A
負荷回路 12回路
定価 30,000

器具の点滅を主とした分電盤ですが半導体調光器を組合せ、希望する数回路を調光操作することができます。



マルモSCR調光器ジュニア

マルモでは半導体調光器1KW 2台を組合せた調光装置を発売します。

従来スライダックですと、1,000Wのスライダックに70%位の負荷（照明器具）しかかけられないこと又調光の途中で長時間停止するとコイルが焼け使用不能となりますが半導体調光器では、これらの弊害がありませんし、操作し易く設計してあります。

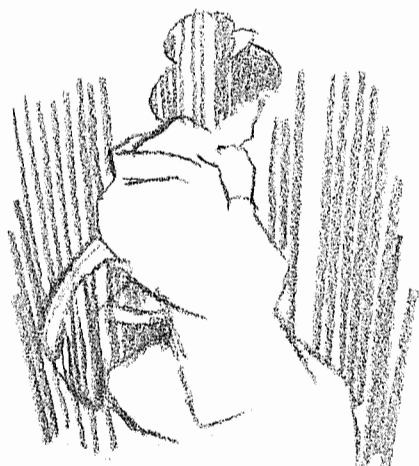
- マルモSCR調光器ジュニア
- 1KW コントラックス 2台
- 負荷回路 4回路
- 定価 ￥40,000

詳しくは7月中旬までにカタログをお送り致します。

特集2

舞台照明と芝居心

舞台照明家
柘植貞輝



芝居心がなければ

本当の照明は出来ない。

照明家に芝居心がなくては舞台の照明は生きたものにはならない。

照明家の芝居心とは照明家自身も舞台にのって芝居をしている、踊りを踊っているという自覚ではないかと思う。

舞台上で芝居をしている俳優の心、演技が照明家の身内に融け込んでいることが大切だということになります。このことは照明家が演出者の意図、台本の訴える内容を、演技者同様に理解しているということであり、照明家

の胸の中で、舞台上の演技者と同様に芝居をしているということになるのである。

芝居心とは

芝居心というのは単に芝居を理解しているという以上に心が芝居の中に融け込むところまでになるのが本当でしょう。

芝居心というもののみごとな実例が東京の照明家協会ニュースNo.62に紹介されています。それは、東京新橋演舞場11月公演「しぐれ茶屋」の一場面でのことです。洪水の中に孤立した、勿論家の中まで泥水に浸された中で、柱に掛けた提灯の灯りがようやく女主人おりく（水谷八重子）の囲りをぼーっと照している。こんな情景の中でおりくが提灯を持って水の様子を見に部屋の隅の方に行く。人の気配を感じて声をかける。こゝで二三のセリフのやりとりがあって鉄之助（安井昌二）が出てくる。こゝでセンタースポットが鉄之助に当たる。これが舞台稽古できめられた芝居だったといいます。

ところが三日目に、おりくが人の気配に気付く時、鉄之助は客に見える位置の暗闇にうづくまっていた。

観客にも「おりく」と同様に誰か居るようだが誰だかわからない不安を感じさせ、「おりく」に「鉄之助」であることがわかると一緒に観客にわかるように明るくした。初めから鉄之助とわからせないで、誰か居るらしく感じさせる明るさとタイミング、その操作が非常にうまかったことは勿論だが、俳優の動きが違って、その場ですぐ適切な処理ができたのは、芝居の内容をよく理解して、常に自分も俳優と一緒に芝居をしているという気持ちだったから自然により結果が生れたのにながいありません。

これは芝居心の一端的ひらめきだと云えると思います。

芝居心はどうやって育てるか。

芝居心を育てる第一の基本は、「すぐれた観客であることが演出者の基本だ」と云われた土方与志先生の言葉がそのまま、当てはまるような気がします。としますと、知るためにはより多く見る、それ以外にはなさそうに思われます。より多く見て知るためには、その前に予備知識をつめ込むことが一そう知るための援軍となるでしょう。

(中部照明家協会会長)

劇場めぐり

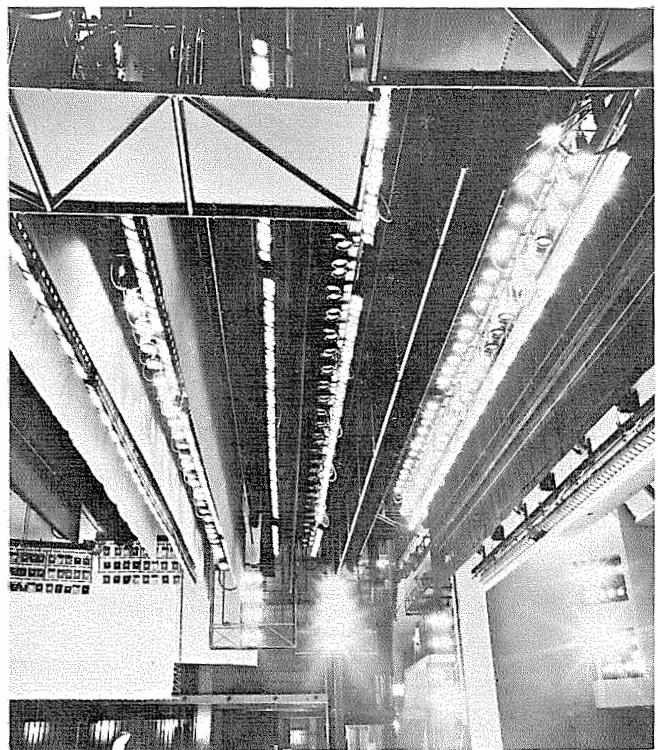
国立劇場大ホール・小ホール

国立劇場は雅楽、能楽、文楽、かぶき、邦楽、民俗芸能等をできるだけ正しい姿でかつ高い水準で公演する古典演劇の殿堂です。

大ホールはかぶき独自の機構と構造により、小ホールは雅楽、能楽、文楽、又、新劇などと多目的使用を考慮して設備されております。

舞台照明設備は施工にあたって従来の劇場の不備や欠点を考慮し、条件のゆるされる範囲で設備されております。

国立劇場の舞台照明設備は丸茂電機株式会社で製作施工致しました。



特集3

テレビと照明

日本テレビ放送網KK

青木久一

テレビ照明とは

最近とみに学校教育の一環として学校放送が盛んになり、特にテレビ・スタジオを備えた学校が大変ふえてまいりました。

さて学内に映像を放送される場合、そこに被写体があり、カメラ、マイクがあつて放送機器の電源を入れ照明をつければ、スタジオでおこなわれている番組の内容はそのまま視聴者（この場合先生、生徒たち）に伝わると単純にお考えではないでしょうか、いいかえれば少しでも良い画質の映像を放送されることに心を配られておりましたか。

すなわち照明ひとつのセクションを考えてみても被写体（人物等）に対して使用される照明器具の種類及びその配置、照射角度、光量等によって画質が良くも悪くもなります。また番組によっては照明の配光しだいでその劇的要素をもりあげることが可能です。

ここではテレビの照明について考えてみましょう。ひとくちにいつて照明にも一般照明にはじまり装飾照明から舞台照明、映画照明、テレビ照明というように幾つにも分類されます。

しかし前者の一般照明から舞台照明まではその効果を直接視覚によって左右されますが、後者の映画照明及びテレビ照明はその間にメカニズムを通して視覚にうったえるわけがあります。この点映画照明とテレビ照明は大変似ており、照明技法的にも相通ずものがあります。

良い画質をつくるには

では良い画質をつくるにはどのような照明をすればよいか、それはテレビ・カメラの特性及び制約を知ることです。まず被写体に対して適正照度をあたえることであり、コントラスト比を充分考慮することです。

反射率の高い背景の前に立った人物の顔が黒く映ったりすることはコントラストオーバーの悪い見本の一例です。また低照度で照明した場合、解像度が悪くなり受像機で見た場合ノイズが多く画面が不鮮明となる原因となります。

照明の種類

このほか被写体に対してテレビの場合、一定レベルの照度が必要です。これをベース・ライトといいます。つまり舞台でいうところの地明りのようなものです。これが基盤となりキー・ライト、フィル・ライト、モデリング・ライト、バック・ライト等の照明の種類によって構成されています。すなわちこれらの組合せと光量のバランスにより立体感のある画面をつくることができます。

照明器具もベース・ライトには指向性のないフラッドなものが用いられ、そのほかのものは指向性のあるスポット・ライトが主して用いられています。

テレビ照明の考え方

テレビ照明は被写体を鮮明に写しだすことが大きな目的のひとつですから、そのために上記のような照明器具をそれぞれの使用目的に従って的確に又充分に活用することが賢明です。

もう少し解り易く説明すれば被写体に対して一定の照度が必要ですが、それ以上に人物ないしは強調したい被写体に対して指向性のあるスポット・ライトで照射し、浮き立たせることができます。ただし、ここで注意しなければならないことは、あくまでもその強調すべき人物ないしは被写体に対する照度と、その被写体の背景との照度のバランスを保たなければならないわけです。

すなわち前にも述べたように被写体に対するコントラスト比のなかにおさめるようにしなければならぬわけです。

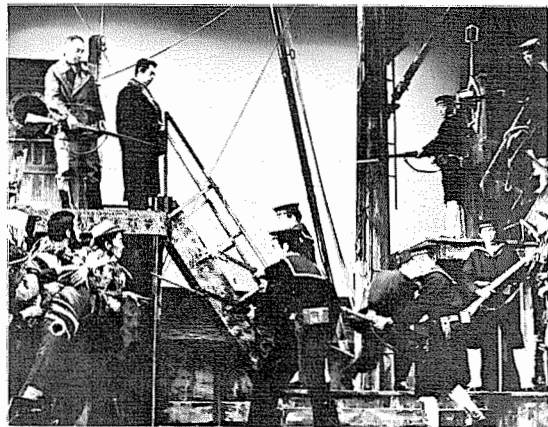
こう申す上げると照明というものは大変むずかしく考えられる方がおられるかも知れませんがカメラを通して受像機を媒体として表現されるテレビ映像というものは、一般照明や舞台照明と異ったひとつの技術制約のなかで、忠実にまもられさえすれば、そうむずかしいものではなく、むしろそのような制約や条件を駆使して放送される映像は、たんに写ればよいという今までの考えをきっと変えてくれることでしょう。

以上のようなことを頭のなかに入れて照明するとまた別の楽しみがわいてくることでしょう。濃淡で表わされるテレビの映像はより深くより大きく広がって、無限の表現方法をきっとみいだすことができるはずですよ。

ここにもマルモが……

東京芸術座

新協劇団と中央芸術劇場が合併して、東京芸術座がつくられたのは1959年2月。今年で10年を迎えました。村山知義氏を中心に、“蟹工船”“おりん口伝・国定忠治”など数々の名作を残しております。又、昨年は大型トラックに舞台装置を山積みし全国の学校を縦横に走り続け、名作劇場「検察官」「スカパンの悪だくみ」は一年を通し百三十回の公演数を数え、活躍と成果には大きいものがあつたと云えましょう。今年は北海道や日本海側を皮



切りに東北、北陸、山陰も廻るプランでいます。高校演劇活動と共に秀れた、創作劇を生みだす仕事も今年の重要目標です。

東京芸術座の地方公演には、軽くて持ち運びが便利で多くの照明効果を発揮するマルモのT-I型DF型NUC型スポットが活躍しております。

劇団事務所

練馬区下石神井1-231

TEL(996)1503・1504

劇場テレビ技術用語解説

地明り (じあかり)

舞台への均等の照明をいう。ベースライトともいう。ポーターライト、 Horizont ライト、 フットライト、 シーリングライト サイドフロントライトなど。

フェードイン

舞台の照度が徐々に増すことをいう (溶明)。その反対がフェードアウト (溶暗) という。調光器によって行なわれている。

フラッドライト

レンズがなく磨き上げた反射をもった器具。スポットライトに比較して均等でやわらかい照明を施すことや、軽量である等の利点がある。

カラーチェンジャー

スポットライト前方に取付け、数種のゼラチンフィルターを色替えする装置。マグネットを利用し、自動的に達隔操作する色替装置 (マグノカラー) や手動式のもの、簡易に色替えを行なうカラーホイールなどがある。

トピックス・トピックス

岐阜県高校演劇教室が7月27日午前10時から午後4時まで東海女子短期大学 (岐阜市日野) で開催されます。当日マルモでは学校向アマチュア向舞台照明器具を展示します。

“アマチュア演劇” 向けのテキストとして新芸術研究所編“劇作りハンドブック” が青雲書房から発行されました。舞台照明に関しては国立劇場立木定彦氏が執筆しております。

EXPO. 70もあと半年にせまり、政府館、フジグループ、ガス、鉄鋼、三菱、住友、ペプシコーラ、自動車館の効果照明を担当しています。マルモでも全社をあげて完成まで頑張っております。

秋田博 (AKITA.FAIR.69)

8月2日～9月25日まで秋田市臨海工業用地で開催される秋田博の農林水産業の未来像をえがく「夢の田園館 (テーマ館)」の効果照明をマルモで担当します。

秋田県の皆さま、どうぞご覧になってください。

マルモ・ライティングニュースは、舞台照明の啓蒙とユーザーへのアフターサービスとして毎号、照明の基礎知識を掲載し無料でお送り致しております。

営業のかたわらの編集ですので発行予定日より、大分遅れて発行しておりますが、何時までも続けるべく頑張っております。

ご希望など係まで、お報りをお待しております。

● お問い合わせご商談は

東京営業所 東京都千代田区神田須田町1～24
TEL (03) (252) 0321(代)

名古屋営業所 名古屋市中区新栄町中日ビル内
TEL (052) (261) 1111(425)

大阪営業所 大阪市北区神山町32
TEL (06)(312) 1913

● 取扱店

北電力設備工事(株) 札幌市南2条西12丁目
TEL (0122) (24) 3911

(株) 東京舞台照明 東京都渋谷区千駄谷3-51-4
TEL (03) (404) 2611

若尾舞台総合研究所 名古屋市中区西新町2～8
TEL (052) (241) 5652

福岡市民会館サービスセンター
福岡市天神5-1-23
TEL (092) (75) 6474

後記

照明のテクニクに関するものや照明設備についてのご質問がございましたらマルモまでお寄せ下さい。照明の専門家やマルモの技術員がお答えします。

発行 丸茂電機株式会社

東京都千代田区神田須田町1-24

編集責任者 井上利彦

製作 出牛亘

デザイン・レイアウト

(不許・複製)